

自治体と大学が連携したアニメを活かしたまちづくりの実践報告

神 田 亮

I. はじめに

香川大学では平成25年度に地（知）の拠点整備事業（以下、「COC事業」という）に採択されて以降、香川県内の自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献に取り組んでいる。香川県には人口減少や高齢化が進むなかで、定住促進、観光振興、商店街活性化、離島振興、コミュニティ振興などの様々な課題があり、瀬戸内地域活性化プロジェクトでは、自治体と連携し、学生の視点で調査研究を深め実践活動を行っている。現在、瀬戸内地域活性化プロジェクトでは、高松市、東かがわ市、丸亀市、観音寺市で活動を行っており、取り組み内容は定住促進や観光促進など様々である。

その中の取組みの一つである、観音寺市定住促進プロジェクトでは、無人駅を地域の交流の場にする試み、廃校を子育て支援センター利活用している観音寺市と連携し子育て支援活動に参加する試み、観音寺市を舞台としているアニメ「結城友奈は勇者である」をテーマとした地域貢献型の活動をアニメファンとともに企画し交流する試み（以下「アニメを活かしたまちづくり」という）、以上3つのテーマで活動している。アニメを活かしたまちづくりでは、「結城友奈は勇者である」の主人公らが所属する勇者部が行っているボランティア活動になぞらえて、アニメファンとともに観音寺市有明浜の清掃活動（以下、「リアル勇者部」という）を実施している。本論では2018年度に実施されたりアル勇者部の活動の際のアンケート結果について報告する。

II. 目的

アニメを活かしたまちづくりでは、自治体と大学が連携し2018年度までに4回のリアル勇者部による清掃活動を行っており、回数を重ねるごとに参加者が徐々にではあるが増加している。そこで、さらに参加者を増やすため来場者にアンケートを実施し今後の活動の資料とすることを目的とする。

III. 方法

1. 被調査者：清掃活動に参加した108名（男性105名、女性3名）
2. 調査実施日：2018年11月25日（日）
3. 調査内容：参加者属性や今回の清掃活動、観音寺市等に関するアンケート14項目
4. 調査方法：googleフォームを利用したwebアンケートおよびアンケート紙法による。
アンケート内容説明の際に調査協力の依頼をした。
5. 回収率：100%

IV. アンケート結果

1) どちらからお見えになりましたか？【都道府県名】

開催県である香川県が最も多く28名で25.9%を占めていた。次に愛知県11名で10.2%、東京都と兵庫県が8名で7.4%と続き、図1 来場者分布に示すように北海道や鹿児島からの参加者も見られた。

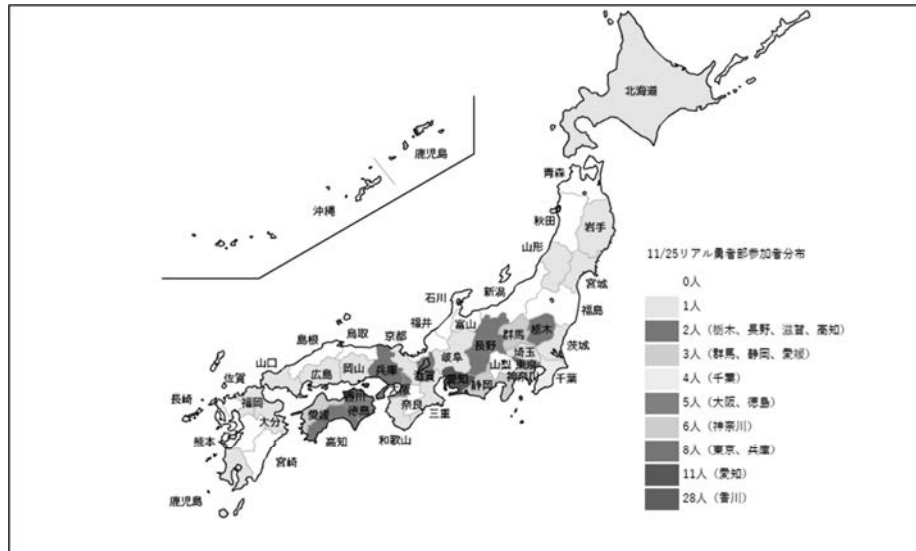


図1. 参加者分布

2) 性別と年代について

性別は前述の通り男性105名、女性3名であった。

年代は図2に示す通り20代が最も多く70名で64.8%、次いで30代が25名で23.1%、40代が8名で7.4%という構成であった。

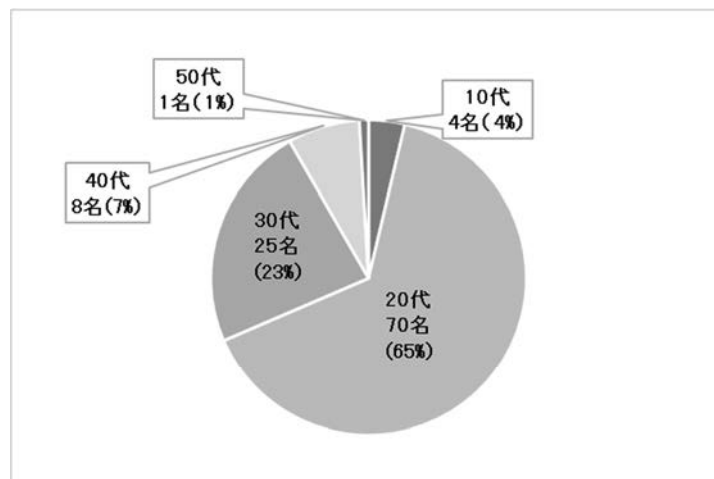


図2. 参加者の年代構成

3) 「リアル勇者部」の活動は何回目の参加ですか？

図3に示す通りはじめての参加者が82名で75.9%となり圧倒的に多かった。次いで2回目と3回目と同数となり9名で8.3%、4回目が3名、5回目が5名でありリピーターが約4分の1であった。

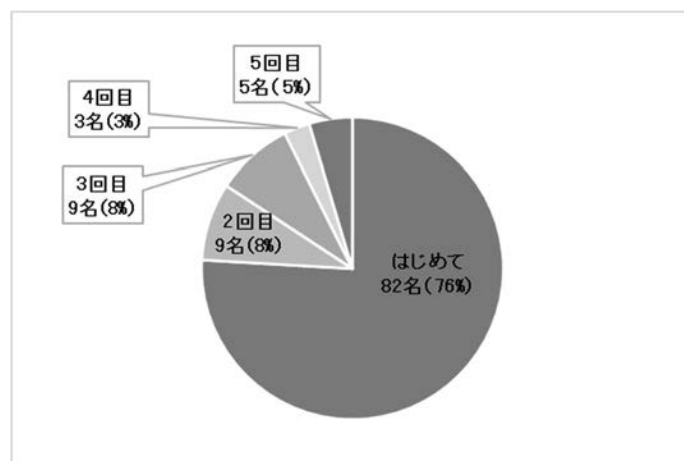


図3. リアル勇者部の参加回数

4-1) 観音寺市に訪れるのは何回目ですか？

図4で示す通り10回以上20回未満が最も多く17名で15.7%、30回以上の来訪回数の方と2回目が次いで多く12名で11.1%、観音寺市在住と5回目が11名で10.2%と続いた。

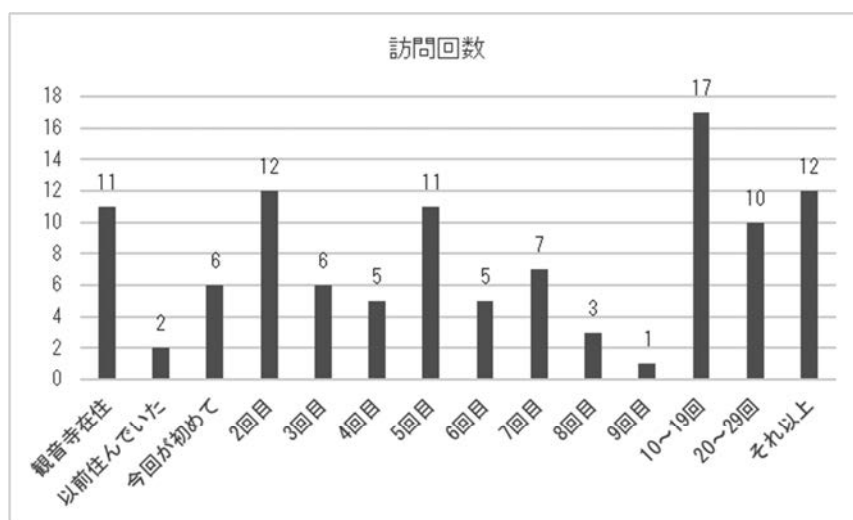


図4. 観音寺市の訪問回数

4-2) 1回目以上（今回が初めてを含む）とお答えになった方にお聞きいたします。どのような目的で来られましたか？

リアル勇者部参加のためが最も多く70名で72.2%、次いで聖地巡礼や前日に開催されたイベントに参加するためとなっていた。

5) この企画をどうやってお知りになりましたか？（複数回答可）

図5で示す通りSNSが最も多く、その内訳でもTwitterが最も多く次いでFacebookという回答であった。また、友達や近隣からのお誘いの件数も多くみられた。

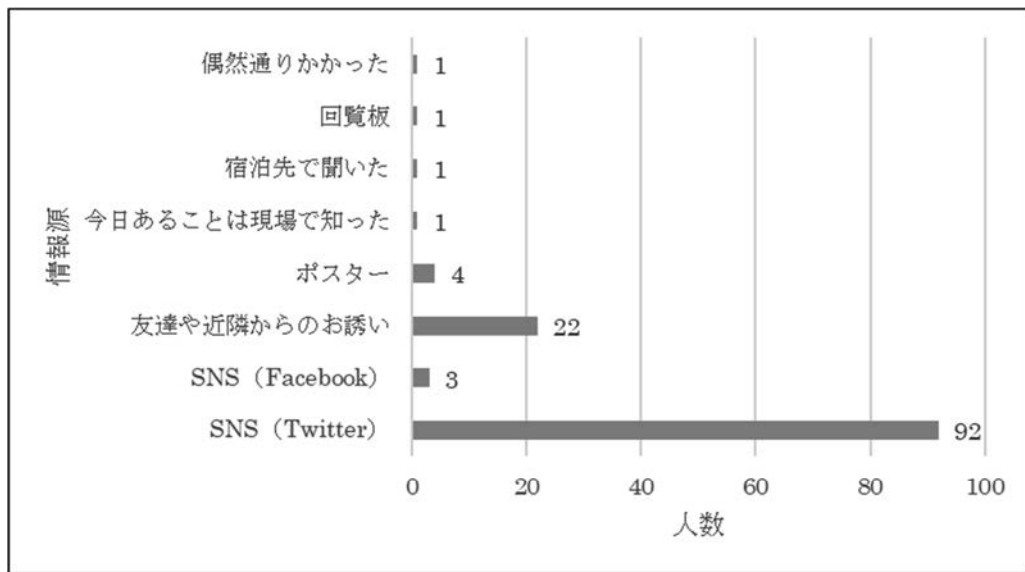


図5. リアル勇者部の企画を知った方法

6) 参加されようと思った理由についてお聞かせください。

聖地であるからという回答が最も多く、観音寺市が好きだから、勇者だからという回答が見られた。

7) こちら有明浜までどのような交通手段で来られましたか？（複数回答可）

図6で示す通り車での来場が最も多く73件で67.6%であった。次いで徒歩が24件で22.2%、電車が14件、自転車が12件であった。

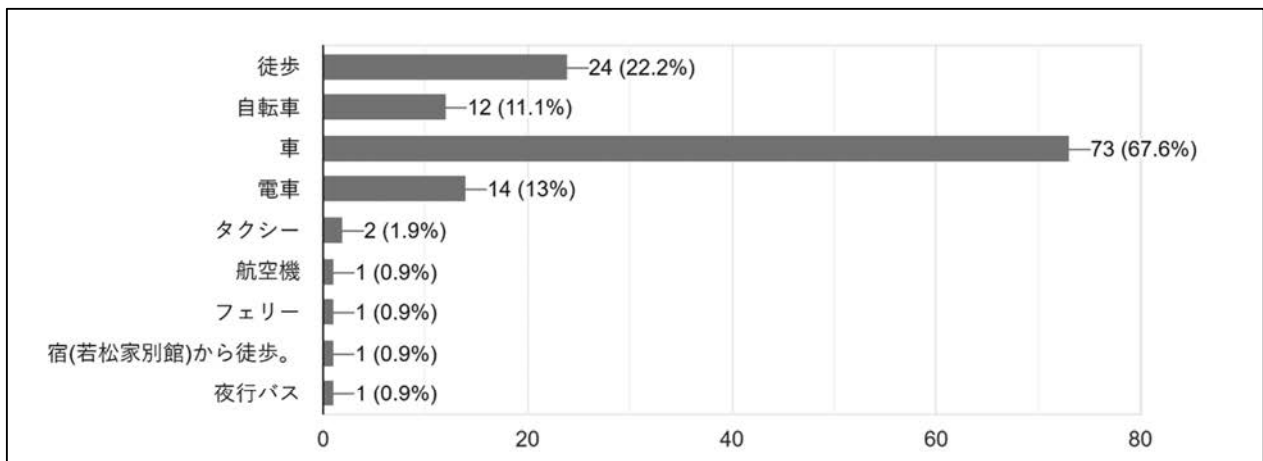


図6. 有明浜までの移動方法

8) 11月24日に開催された「勇者部満開 - 勇者部心得、ここの一つっ！」に参加されましたか？

図7で示す通り「リアル勇者部」前日に開催されたイベントに参加した方は99名で91.7%にのぼった。

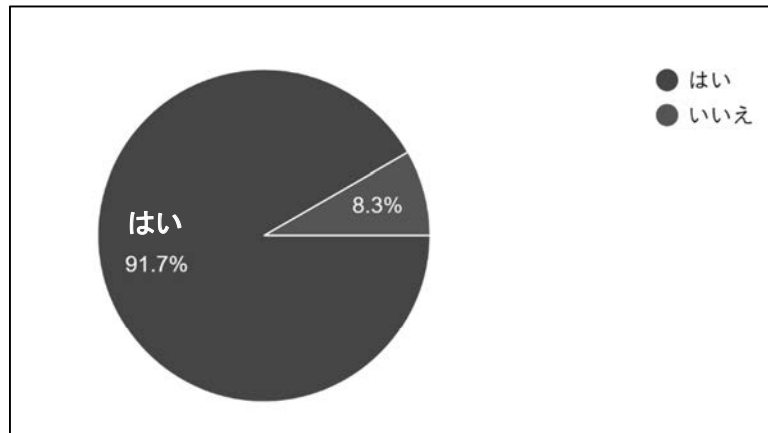


図7. 前日に開催された同アニメに関連するイベントに参加した割合

9) 観音寺市の名所について知っているものにチェックしてください。(複数回答可)

図8で示す通り最も知名度が高かったのが銭形砂絵で105件であった。次いで三架橋と琴弾公園が100件、天空の鳥居（高屋神社）が98件と続き、認知度が高い名所とそうでない名所が浮き彫りとなった。

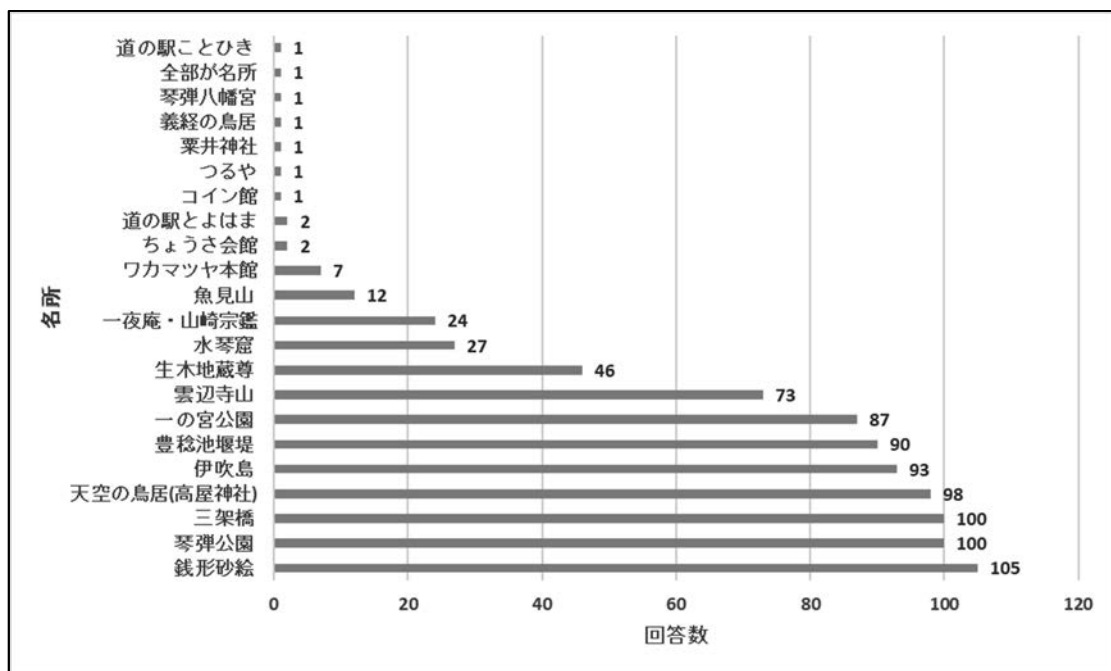


図8. 観音寺市の名所について知っているもの（複数回答可）

10) 観音寺市の祭りやイベントについて知っているものにチェックしてください。(複数回答可)

図9で示す通り銭形まつりが77件と最も多く、次いでさぬき豊浜ちょうさ祭が68件、観音寺の祭(琴弾八幡宮秋季大祭)が60件と続いた。こちらも名所と同様、知名度が高いものとそうでないものが浮き彫りとなった。

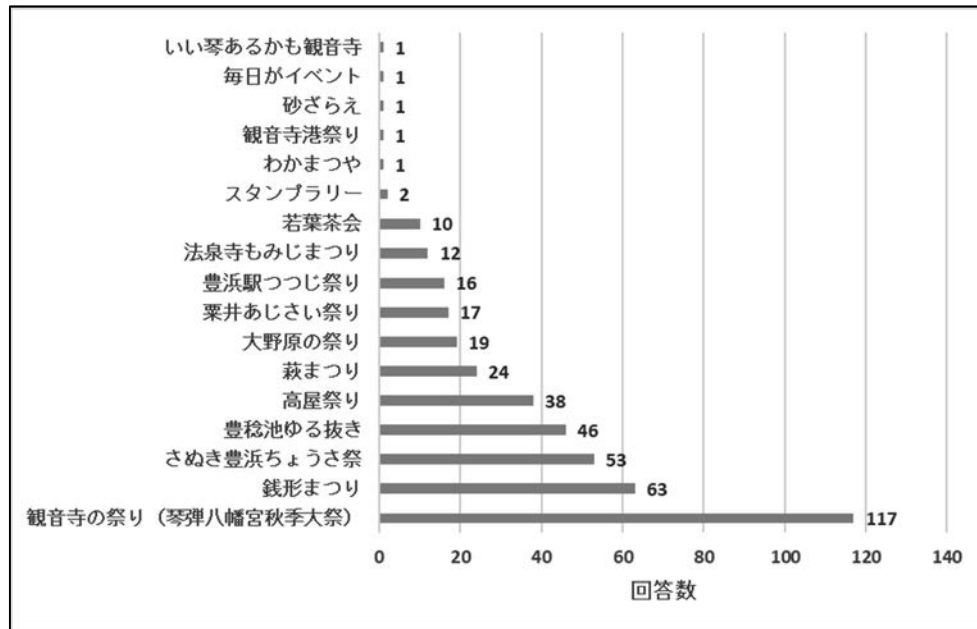


図9. 観音寺市の祭りやイベントについて知っているもの

11-1) 本日参加してみての感想をお聞かせください。

図10で示す通り楽しかったが102名で94.4%を占め、普通と答えた回答が6名で5.6%であった。

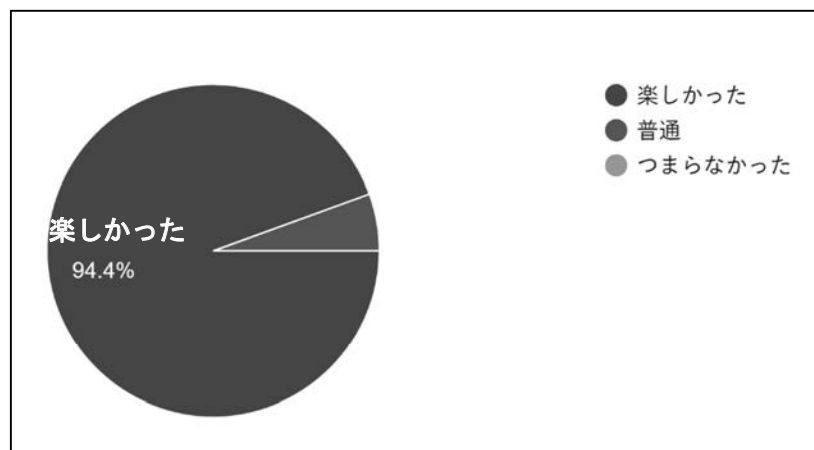


図10. リアル勇者部に参加してみての感想

11-2) 良かった点、改善すべき点はありましたか？

64件の回答があり良い点ではスタッフの対応が丁寧であった、QRコードでのアンケートが良かった、ファン同士の交流の場としてとても有効であった等の回答があった。改善すべき点として、ごみの分別方法の明示についてが最も多く、清掃時間が短い等の回答が見られた。

12) 他に観音寺でアニメに関連して開催したらまちおこしにつながりそうなアイデアはございますか？

46件の回答がありスタンプラリーや、バスツアー、コラボ商品の開発等様々な回答があがった。

13) また参加したいと思われましたか？

図11に示す通り108名全員がまた参加したいとの回答であった。

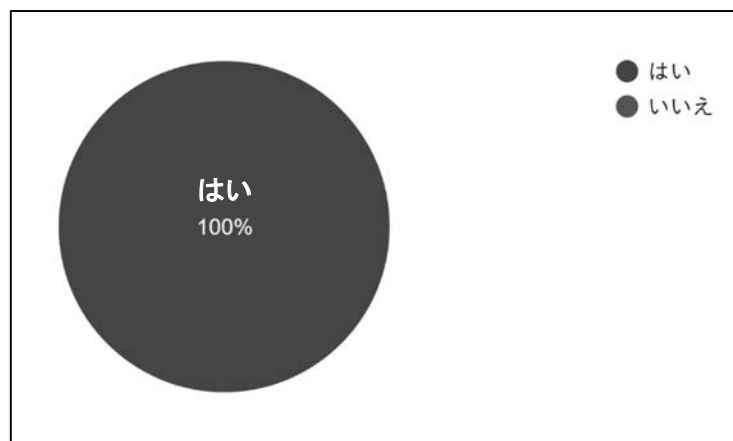


図11. また参加したいか

14) その他のご意見・ご感想

35件の回答があり、また参加したい、声優さんにも参加していただきたい、観音寺がもっと盛り上がってほしい等感謝の回答が見られた。

V. 考察

リアル勇者部の活動は2016年度から始まり、第1回目は2016年11月6日に開催され参加者は図12に示す通り21名、2回目は1か月後の12月4日に開催され参加者は23名、3回目は2017年7月1日に開催され参加者は19名、4回目は同年12月3日に開催され47名の参加者であった。2018年度は7月6日に第5回目を開催予定であったが、西日本豪雨による特別警報が発令されていたため中止とした。そのため、2018年11月25日に第5回目のリアル勇者部を開催し参加者は108名にのぼった。今回の参加者が前回の倍以上になった要因は前日に開催された、同アニメに関連するイベントの翌日にリアル勇者部の活動を当てたことが大きな要因といえる。これまで開催された4回で平均参加者数が27.5名であったことから、参加者を増やすことを目標とし、開催日程を調整する際に前日のイベントに焦点をあて開催日を決定した。質問項目

8) に対する回答からも99名の方が前日のイベントに参加していたことが明らかとなった。そのこともあり、当日の参加者は前回から倍以上の61名増という結果につながった。また、質問項目3)にあるようにリアル勇者部の活動に初めて参加したという方が約76%にのぼりっていることも明らかとなっており、前日のイベントに日程を合わせることで多くの新規の参加者を呼び込むことができた。

今回のリアル勇者部の参加者がどの地域から参加しているかという、質問項目1)の結果のように、香川県外からの参加者が多いことも分かった。このことから、単発的に今回のようなイベントを計画するよりも、前日に開催される同様のイベントに日程を合わせることで参加者が参加しやすい状況を生むことが分かった。さらに言えば、県外からの参加者が多かったことからリアル勇者部に参加した参加者は、この活動のために観音寺市周辺に宿泊したということも考えられ、この活動だけでも一定の経済効果が生まれたといっても過言ではないといえる。

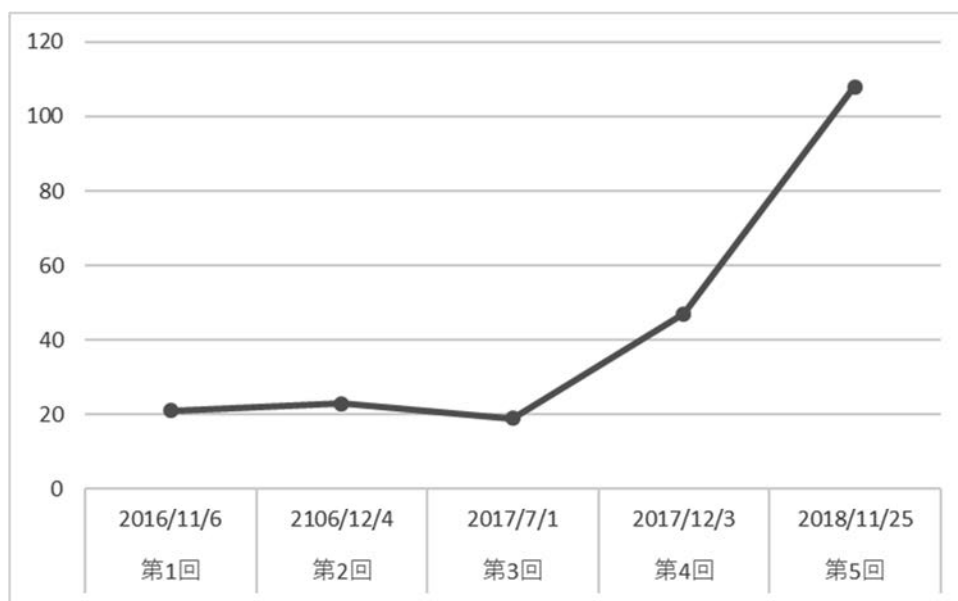


図12. リアル勇者部参加者の推移

質問項目13)で示す通り、108名の参加者全員がまた参加したい回答しており、質問項目5)で今回のリアル勇者部の活動についての情報源として最も多く挙げられていたSNS (TwitterやFacebook) を有効活用することが重要となる。今回の活動の状況がSNSで拡散することで次回の参加人数はさらなる増加が見込める。内閣府のクールジャパン戦略においてもアニメツーリズムの推進をうたっており、日本のアニメや漫画については世界的に注目され、既に海外には多くのアニメファンが存在している⁽¹⁾⁽²⁾。また、このような全世界のファンが来日の際には「アニメ聖地」に訪問したいというニーズは急激に高まっている。平成28年にはアニメツーリズム協会が設立され、アニメ聖地を88か所選定し複数のアニメ聖地を結ぶアニメ聖地巡礼ルートなども整備し外国人観光客を呼び込む計画を練っている⁽³⁾。アニメを活かしたまちづくりで取り上げているアニメ「結城友奈は勇者である」はこの「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」に2018年度版、2019年度版2年連続で選定されており、なお一層国内外からの注目が集まっている。そのような観点からも、今後SNS等の情報拡散やインフルエンサーを活用した情報発信により今後は国内外からの参加者を多く見込めると考える。

今後は質問項目9)、10)の結果で明らかとなった認知度が高くない名所やイベントと関連付けてリア

ル勇者部およびそれ以外の活動を計画することで、観音寺市の新たな魅力を発信することができる。また、質問項目12)の自由記述で挙げられた、スタンプラリーやバスツアー、コラボ商品などを計画することも今後の活動においては重要なキーワードとなる。さらに質問項目11-2)の自由記述で挙げられた、ごみの分別方法についても、分かりやすく図で示すことや事前にSNS等で周知をするなどさらなる工夫が必要であると考ええる。

VI. まとめ

香川大学では、平成25年度に文部科学省COC事業に採択を受け、平成29年度までの5年間にわたり自治体と連携した取り組みを実践してきた。COC事業が終了した今年度においても、自治体との連携を継続し教育・研究・地域貢献に取り組む持続可能な社会実現に向けた活動が進められている。観音寺市定住促進プロジェクトでは無人駅を地域の交流の場にする試み、廃校を子育て支援センター利活用している観音寺市と連携し子育て支援活動に参加する試み、アニメを活かしたまちづくりの試みについて取り組んでいる。今年度実施した、アニメを活かしたまちづくりにおけるリアル勇者部の活動は108名の方が観音寺市に集まり活動を行うことができた。次年度は今回得たアンケート結果をもとに新たな計画を練ることと同時に、クールジャパン戦略で取り上げられているインバウンド獲得に対しても計画を練る必要がある。今後は、外国語による情報発信等を行うことや関連商品の開発、また実施プログラムそのもののサポート体制等について検討を深めていきたい。



図13. リアル勇者部の活動の様子

参考文献

- (1) 内閣府 (2018) 「クールジャパン戦略について」 https://www.cao.go.jp/cool_japan/about/about.html (2019年1月参照)
- (2) 内閣府 (2017) 「クールジャパンの推進／コンテンツを活用した地域活性化」 https://www.cao.go.jp/cool_japan/local/seminar1/pdf/siryou1-2.pdf (2019年1月参照)
- (3) 一般社団法人アニメツーリズム協会 (2019) <https://animetourism88.com/ja> (2019年1月参照)